

調査研究

看護学生の受験理由と看護学科選択理由に関する実態

— 本学看護学科1期生の入学時調査から —

酒井 志保¹⁾ 滝内 隆子²⁾ 佐々木真紀子³⁾ 大島 弓子⁴⁾

STUDIES ON THE MOTIVES OF APPLYING THIS COLLEGE AND THE CHOICE OF DEPARTMENT IN NURSING STUDENTS -THROUGH A SURVEY TOWARD THE FIRST ENROLLEES OF THE DEPARTMENT OF NURSING AT THE BEGINNING OF THE FIRST SEMESTER-

Shiho SAKAI Takako TAKIUCHI Makiko SASAKI Yumiko OHSHIMA

抄録：日本赤十字秋田短期大学（以下、本学とする）看護学科1期生80人に対し、本学および看護学科を選択した理由について質問紙調査を入学時に行った。本学は新設校であり学生のニーズを把握しにくいいため、入学動機を知ることが効果的な教育につながる第一歩と考えたためである。調査内容は、本学の受験理由、看護学科選択理由であり、有効回答者数80人の自由記述は内容分析した後、集計した。その結果、以下の結論が得られた。1) 本学の受験理由及び、学科選択理由の記載件数は、1人あたり1, 2件と少なかった。2) 本学の受験理由は「赤十字」であること、「新設校」であること、「職業志向」の順に多かった。3) 学科選択の理由は「看護婦の職業的意義」を重視したものが最も多く、次いで「過去の体験」からが多かった。4) 本学の受験理由に「赤十字」とあげた人に学科選択に「社会的貢献」をあげた人の割合が多かった。

キーワード：入学、受験理由、学科選択、赤十字、短期大学、新設校

Summary: Because Japanese Red Cross College of Akita has been newly-established, it is somewhat difficult to understand the motives to apply this College.

Therefore, we have attempted to grasp the reason why they had chosen this College and Department, which might provide us a better nursing educational basis. Fill-in-blank questionnaire asking the motive of enrollment was given to each first enrollee of the Department Nursing. Eighty effective replies were obtained and following facts were made certain: 1) Each student pointed out only a few reasons for choosing this College and Department. 2) Factors which affected the choice of this College were, in decreasing order, "to be founded by Red Cross", "to have been newly-established", and "profession oriented". 3) The best reason which made them determine nursing as specialty was "significance of nursing profession", "out of personal experience" was the second. 4) Ratio of answering "social contribution" was high among the students who pointed out "to be founded by Red Cross" as a reason to apply this College.

key words: Motive to apply the college, Reason to apply the college, Reason to choice the department, Red Cross, College, newly-established

I. はじめに

日本赤十字秋田短期大学（以下、本学とする）は平成8年度開学し第1期生を迎えた。本学は秋田赤十字専門学校の88年の歴史のもとの開学であり、学校の持つ哲学的な基盤や伝統は継承されてはいるが、学校の形態、施設、教育体制は新しく

看護学科

1) 助手 2) 助教授 3) 講師 4) 教授

なった。そのため1期生は歴史を作り上げていく学生として位置付けられ、教師側にとっても本学の学生として初めて接していくことになる。これらの状況のもと、初めて、学生を受け入れる教師側にとって、本学の1期生がどのような目的で学習の場を選択し、どのような学習上のニーズを持ち、どのような学習の習慣、志向を持っているのかを知ることは、今後の教授・学習活動をすすめる上で重要であると考え。特に基礎看護学を担当している筆者らは、初年度早々から講義が組まれており、この教授・学習活動を本学1期生入学と同時に開始することになり、前述のニーズ把握が早急に必要である。

そこで、本学看護学科1期生の入学直後に、学習上のニーズを把握する目的で調査を行った。本研究は、その調査の中で、1期生の入学動機に焦点をあてたものである。

なお、入学動機に関する先行研究では、一看護専門学校及び一看護短期大学・大学の入学動機や看護婦希望などに関するもの^{1) 2) 3) 4) 5) 6) 7)}はみられた。しかし、いずれも調査校の実態をみたもので、本学に対応したものはみられなかった。本研究は本学の学生を対象に、本学の受験理由及び看護学科選択理由について調査したものであり、その結果について報告する。

II. 研究目的

本学看護学科1期生の入学動機について明らかにする。

1. 本学看護学科1期生の本学の受験理由及び看護学科選択の理由を明らかにする。
2. 本学の受験理由と看護学科選択理由との関連性を明らかにする。

III. 研究方法

1. 調査対象：本学看護学科1期生80人
2. 調査期間：平成8年4月17日
～平成8年4月24日
3. 調査方法：筆者らが作成した質問紙を用いた留め置き調査。被調査者に調査の目的を説明し、了解を得た上で記名式とした。調査内容は①本学を受験した理由②看護学科を選択した理由で、自由記載とした。
4. 集計・分析方法：
 - 1) 自由記載の内容分析 (1) 記載内容を研究者間で検討したのち、1要素1内容に分類し

た。この分類の信頼性を得るために、一定期間において5回繰り返し、同じ分類に2回なったものを1件として選択した。(2)(1)の分類を意味内容別にカテゴリー化し、カテゴリーの内容妥当性の検討を研究者間で行った。(3)本学受験理由のカテゴリーについては、(2)と同様な手続きを経た後、さらに大きなカテゴリー化を行った。

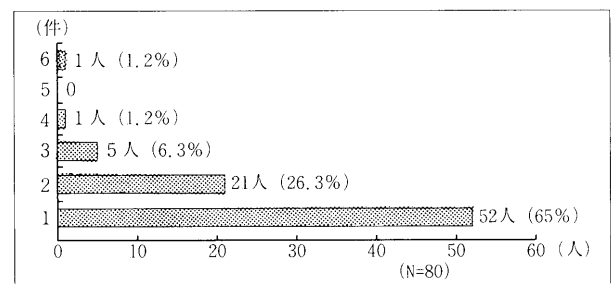
2) 集計方法 (1) 本学の受験理由と看護学科選択理由の記載件数及びそれらをカテゴリー化したものをそれぞれ単純集計した。(2) 1)の(3)でカテゴリー化した受験理由及び看護学科選択理由との間でクロス集計した。その後、差を明らかにするため χ^2 検定を行った。

IV. 結果

1. 対象者数

回答者数80人。本学受験理由の有効回答数80、看護学科選択理由の有効回答数79であった。

図1 本学を受験した理由の自由記載件数別人数



2. 本学を受験した理由

1) 本学を受験した理由の自由記載件数別人数
本学を受験した理由の有効回答数80の自由記載件数は119件であり、この自由記載件数別人数は、図1の通りであった。「1件」の回答者が52人(65.0%)と最も多く、次いで「2件」の21人(26.3%)で両者を合わせると91.3%であった。

2) 本学を受験した理由の分類と内容

自由記載件数119件の記載内容の分類とその具体的な記載内容の主なものを表1に示した。記載内容を意味内容ごとにまとめると「赤十字だから」「日赤の短大だから」「新設校だから」など14の小項目となり、さらにこの小項目をカテゴリー化すると6の大項目となった。その内訳は「赤十字」が22件(18.5%)と最も多く、次いで「新設校」の21件(17.6%)、「職業志向」の19件(16.0%)、「短大」の16件(13.4%)、「地元」の13件(10.9%)

表1 本学を受験した理由の分類と内容

n = 119

大項目	小項目	具体的な記載内容
I. 赤十字 22件 (18.5%)	1. 赤十字だから 20件 (16.8%)	「国際的に活動している赤十字の元で看護を学びたいと思った」 「看護婦といえば日赤というのが頭にあったから」 「昔から赤十字の活動を知っていて、私も人のためになる仕事に携わりたいと考えこの学校を受験した」 「赤十字が医療の代表のような機関だと思ったから」 etc.
	2. 日赤の短大だから 2件 (1.7%)	「日赤の短期大学で学びたかった」
II. 新設校 21件 (17.6%)	3. 新設校だから 17件 (14.3%)	「新設校だから」 「新設校で設備がいいから」 「新設なので最先端の技術を身につけられると思った」 etc.
	4. 1期生になれるから 4件 (3.3%)	「1期生として歴史をつくっていきたくかったから」 「新しく短大になり1期生というところに惹かれたから」 etc.
III. 職業志向 19件 (16.0%)	5. 看護婦になりたい 10件 (8.4%)	「看護婦になりたいから」 「国際的な医療活動をする赤十字の看護婦になりたいと思ったから」 「広く社会に貢献できる看護婦を志しているため」 etc.
	6. 医療職になりたい 5件 (4.2%)	「医療に関わる仕事をしたかったから」 「医療に強い関心を持っているから」 etc.
	7. 資格取得のため 4件 (3.4%)	「資格取得のため」 「将来のために資格を取得する」 etc.
IV. 短大 16件 (13.4%)	8. 短大だから 13件 (10.9%)	「今年から短大になった」 「専門学校が短大になり、実務的な勉強の他に、一般教養も学んで実務的な能力も幅広い教養も両方身につけられると思ったから」 「短大で進学が可能なこと」 etc.
	9. 専門学校より 学べるから 3件 (2.5%)	「専門学校とは違った勉強の仕方があると思ったから」 「専門学校より幅広く高度な知識と技術を学べると思ったから」 etc.
V. 地元 13件 (10.9%)	10. 地元だから 13件 (10.9%)	「県内の看護学校に進学したかった」 「地元にはなかった」 「地元の医療についても学べると思ったから」 etc.
VI. その他 28件 (23.6%)	11. 受験の結果 4件 (3.4%)	「合格するかもという可能性にかけた」 「3校受験してこの学校だけ受かった」
	12. 他者の薦め 3件 (2.5%)	「担任の先生に勧められたから」 「親に勧められた」
	13. 過去の体験 3件 (2.5%)	「中学生の時、この学校の1日看護婦体験に参加したのがきっかけ」 「高校3年間、JBC部で青少年赤十字の活動をしてきたが、その活動を通して赤十字に関わる仕事がしたいと思ったから」 etc.
	14. その他 18件 (15.2%)	

(単位：件数、複数回答)

であった。

カテゴリーごとの具体的な記載内容は以下のようであった。

「赤十字」では、赤十字で学びたいという内容が最も多く、その具体的な記載内容には「国際的に活動している赤十字の元で看護を学びたいと思った」、「看護婦といえば日赤というのが頭にあったから」や「赤十字が医療の代表のような機関だと思ったから」などがあげられていた。

「新設校」では、「新設校で設備がいいから」「新設なので最先端の技術を身につけられると思った」や「1期生として歴史をつくっていきたく

ったから」などがあげられていた。

「職業志向」では、ただ看護婦になりたいという回答だけでなく、具体的な記載内容に「国際的な医療活動をする赤十字の看護婦になりたいと思ったから」や「広く社会に貢献できる看護婦を志しているため」、また「医療に関わる仕事をしたかったから」などがあげられていた。

「短大」では、「短大で進学が可能なこと」や「専門学校とは違った勉強の仕方があると思ったから」などがあげられていた。

「地元」では、「県内の看護学校に進学したかった」や「地元の医療についても学べると思った

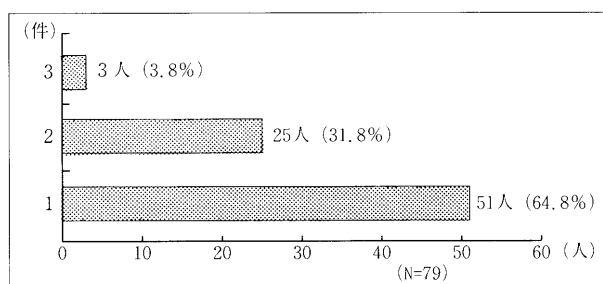
から」などがあげられていた。

3. 看護学科を選択した理由

1) 看護学科を選択した理由の自由記載件数別人数

看護学科を選択した理由の有効回答数は79で、無回答1であった。自由記載件数は110件であり、自由記載件数別人数は図2の通りであった。「1件」の回答者が51人(64.6%)と最も多く、次いで「2件」の25人(31.6%)で、両者を合わせると96.2%であった。

図2 看護学科を受験した理由の自由掲載件数別人数



2) 看護学科を選択した理由の分類と内容

回答者数79人の自由記載件数110件の自由記載を意味内容ごとにカテゴリー化したものは表2に

示す通りで、カテゴリーは9になった。最も多かったのは「看護婦の職業的意義」が24件(21.8%)、次いで「過去の体験」が17件(15.5%)、「看護婦希望」と「夢・憧れ」が各14件(12.7%)であった。

それぞれのカテゴリーの主な具体的記載内容は表2に示した通りであり、以下のものであった。

「看護婦の職業的意義」では看護の職業的な内容について述べており、具体的な記載内容としては「やりがいのある職業だから」「人と一生関わり、人を助ける仕事がしたいと思っていた」や「一生続けられるから」などがあげられていた。

「過去の体験」では、家族の病気や入院がきっかけとなったものが多かった。具体的な記載内容としては「祖母の入院がきっかけで、人を助ける仕事がしたいと思ったから」や「1日体験看護学習がきっかけ」などがあげられていた。

「看護婦希望」では、「将来、看護婦になりたいと思ったから」や「不安や痛みを抱えている人の支えとなるような看護婦になりたいと思ったから」などがあげられていた。

「夢・憧れ」では、「看護婦になるのは小さい頃からの夢だから」や「憧れていたから」などが

表2 看護学科を選択した理由の分類と内容

n = 110

カテゴリー	具体的な記載内容
A. 看護婦の職業的意義 24件(21.8%)	「やりがいのある職業だから」 「人と一生関わり、人を助ける仕事がしたいと思っていた」 「人の命に関わる責任ある仕事」 「一生続けられるから」 etc.
B. 過去の体験 17件(15.5%)	「祖母の入院がきっかけで、人を助ける仕事がしたいと思ったから」 「以前、看護婦さんのお世話になったときから、自分も看護婦になって患者さんの苦しみや精神的な苦しみを和らげたいと思ったから」 「1日体験看護学習がきっかけ」 etc.
C. 看護婦希望 14件(12.7%)	「将来、看護婦になりたいと思ったから」 「人々と医療の架け橋になれるような看護婦になりたいと思ったから」 「不安や痛みを抱えている人の支えとなるような看護婦になりたいと思ったから」 etc.
D. 夢・憧れ 14件(12.7%)	「看護婦になるのは小さい頃からの夢だから」 「憧れていたから」 「看護婦という職業について人の役に立つのが私の夢だから」 etc.
E. 社会的貢献 10件(9.1%)	「看護婦として社会に貢献していこうと決めたから」 「看護婦になって地元に貢献したいから」 etc.
F. 進路の基礎 10件(9.1%)	「将来、保健婦になりたいから」 「もともと養護教諭になりたいと思っていたので、看護婦の資格を取って、それから勉強しようと思った」 etc.
G. 自己の生き方 7件(6.4%)	「看護婦として人間と関わることによって自分を人間的に大きく成長させられるから」 「何となく進学して、何となく就職して…という人生にしたくない」 etc.
H. 看護の学習 2件(1.8%)	「看護について学びたい」
I. その他 12件(10.9%)	

(単位：件数、複数回答)
(無回答除く)

あげられていた。

「社会的貢献」では、「看護婦として社会に貢献していこうと決めたから」や「看護婦になって地元で貢献したいから」があげられていた。

「進路の基礎」では、「将来、保健婦になりたいから」や「もともと養護教諭になりたいと思っていたので、看護婦の資格を取って、それから勉強しようと思った」などがあげられていた。

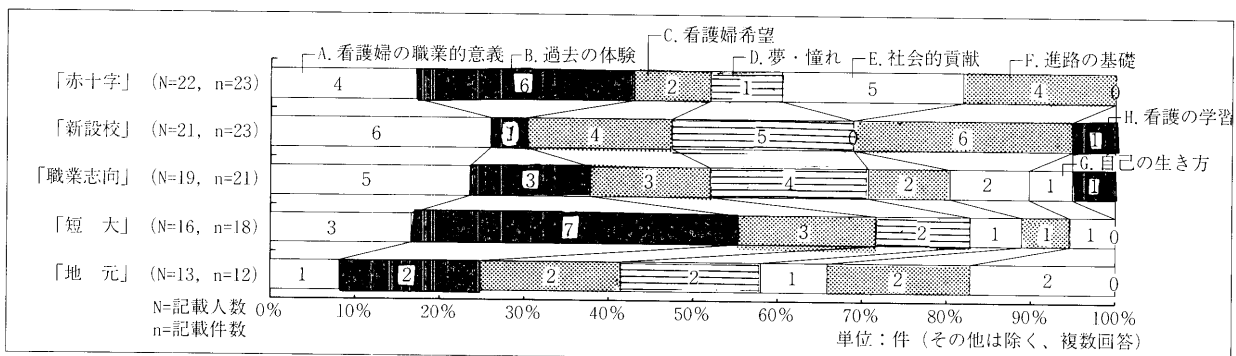
「自己の生き方」では、「看護婦として人間と関わることによって自分を人間的に大きく成長させられるから」や「何となく進学して、何となく就職して・・・という人生にしたくない」などがあげられていた。

「看護の学習」では、「看護について学びたい」があげられていた。

4. 本学の受験理由と看護学科選択理由との関係
 本学の受験理由と看護学科の選択理由との関係を図3に示した。有意差はみられなかったが、両群間では、次のような特徴がみられた。

本学の受験理由の各カテゴリーごとに看護学科選択理由を多い順にみると、本学の受験理由「赤十字」では、学科選択理由は「過去の体験」6件(26.1%)、「社会的貢献」5件(21.7%)、「看護婦の職業的意義」と「進路の基礎」が各4件(17.6%)であった。「新設校」では、「看護婦の職業的意義」と「進路の基礎」が各6件(26.1%)、次いで「夢・憧れ」が5件(21.7%)であった。「職業志向」では、「看護婦の職業的意義」が5件(23.8%)、次いで「夢・憧れ」が4件(19.1%)、「過去の体験」と「看護婦希望」が各3件(14.3%)であった。「短大」では、「過去の体験」が7件(38.9%)、次いで「看護婦の職業的意義」と「看護婦希望」が各3件(16.7%)であった。「地元」では、学科選択理由のどのカテゴリーも1~2件(8.3~16.7%)であった。

図3 本学の受験理由と看護学科選択との関係



V. 考 察

1. 本学を受験した理由について

1) 本学を受験した理由の自由記載件数別人数
 本学を受験した理由の自由記載件数別人数は、1, 2件の回答者が多く、西郷ら⁸⁾の研究も同じ傾向であった。

高校生の進学・受験に関するアンケート⁹⁾によると、学年が進むにつれ、志望校を決定している人の割合が増えている。高校3年生では94.7%が志望校を決定しており、学部・志望校とも決めている人は79.5%であった。つまり高校生は学年が進むにつれ、自分の進路を明確にしていき、3年生では受験校と学部をほとんどの人が決定しているといえる。決定をすでにしているということは、看護系の短大・大学に限らず一般的受験生の傾向として、その短大・大学の選択理由はすでに絞られてきているためその理由数は少ないと考えられる。本学の受験理由の数が少ないことは、このことと同様の傾向があるのではないかと思われる。

また一方、この受験理由の1, 2件の少なさは、その1つ1つに選択理由としての重みがあるとも考えられ、本学の受験理由として重要視する必要があるとも考えられる。

2) 本学を受験した理由

本学受験理由で多いものの第1位は「赤十字」であった。具体的な記載内容では「看護婦といえば日赤というのが頭にあったから」や「赤十字が医療の代表のような機関だと思ったから」がみられることから、赤十字を看護や医療の代表的機関として捉えているためではないかと考える。この選択が上位であり、学生のニーズとしてもとられることを考えると赤十字の特徴をいかす教育を大切にしていく必要があると思われる。

本学受験理由の第2位は「新設校」であった。具体的な記載内容は「新設校で設備がいいから」「新設なので最先端の技術を身につけられると思

った」であったが、これは本学のパンフレットに基づくものや“新しい”ということからくるイメージが先行して、学校選択に結びついたものと思われる。また具体的な記載内容に「1期生として歴史をつくっていきかかったから」もあげられていたことから、既にあるものよりも新たに伝統を作り上げていくという前向きな姿勢も感じられる。1期生になることは、先輩をみるができないということもあるが、新たな取り組み、足跡を作り上げることもできる。学生の気持ちをいかす肯定的な側面を伸ばすことができるよう教育的なサポートをすることは、今後大切であると考ええる。

本学受験理由の第3位は「職業志向」である。これは職業選択を優先的に捉えていると考えられる。また、第4位である「短大」では、短大そのものの持つ今後の幅広い選択ができることへの希望もみられている。一方、職業への志向も加味されたものも多い。この「職業志向」の記載内容と第4位の「短大」の記載内容を比較してみると内容的に相違があると思われる。つまり職業をすぐに身につける志向と、短大で幅広い知識を身につけた上で職業を志向していくことの相違である。これらの記述から見ると、看護を習得していく中にも混在した考えがあることがわかる。これらの多様な学生のニーズを満たしていくような教育的配慮も必要と思われる。

第5位の「地元」は、通学の利便さや地元への愛着から選択していると考えられる。具体的な記載内容の「地元の医療についても学べるといったから」は、地域医療のニーズから学びたいというもので、地元への愛着がさらに積極的であるとも捉えられる。

本学の受験理由の上位は「赤十字」「新設校」である。これは本学の持つ学校としての条件、つまり本学の持つ理念・設備に基づいたものが上位であり、これらの点を今後も、より充実させていくことが必要であろう。また、「職業志向」「短大」からは、専門的知識・技術教育の充実と幅広い教育の充実の双方が求められると考える。学生が本学に対し、学習していく場として望ましいと考えたことや、よいイメージとして捉えていることを積極的に伸ばしていけるように教育的に支持していく必要があると考える。一方、少数ではあるが「受験の結果」や「他者の薦め」のように消極的理由で受験した学生もみられている。これらの学生に対しては、本学の選択がその学生にとってプ

ラスになるよう継続的な教育的アプローチをしていくことが必要と考える。

2. 看護学科を選択した理由について

1) 看護学科を選択した理由の自由記載件数別人数

看護学科を選択した理由の自由記載件数別人数は1, 2件の回答者が多く、西郷ら¹⁾の研究の2, 3件に比し、少ない。永田¹¹⁾は、看護婦になるということを比較的身近で少ない情報から決定していると述べている。このことから考えると、記載件数が少ないことは看護婦選択の判断材料になる身近な情報が不足しているためとも考えられる。

自分が進もうとしている看護職に関する情報が少ないと、その職業に関して固定したイメージを持ちやすいと思われる。したがって、看護の幅広い見方・考え方を教育のなかにとり入れ、看護観や職業観を深めていけるような教育上の配慮が必要であろう。

2) 看護学科を選択した理由

看護学科選択理由の第1位は「看護婦の職業的意義」である。具体的な記載内容には「やりがいのある職業だから」「人と一生関わり、人を助ける仕事がしたいと思っていた」などがあげられており、看護婦の持つ職業的、社会的意義から職業を選択していると考えられる。また、「一生続けられるから」は、看護婦という職業は継続することが社会的に可能であるという利点をあげている。これらのことから看護職を継続していきたいニーズも捉えることができる。したがって看護職を志向することを強化するような質の高い、先々にも有効となる看護基礎教育を充実していくことが重要であると考ええる。

学科選択理由の第2位は「過去の体験」である。具体的な記載内容には「祖母の入院がきっかけで、人を助ける仕事がしたいと思ったから」など家族や自分の病気・入院がきっかけとなったことがあげられている。また「1日体験看護学習がきっかけ」などの看護婦体験及びボランティアがあげられている。これらの回答からは、周囲の人の病気により、看護を実際に目の前で見たり行ったりすることが自らの進路の選択につながったと考えられる。

「看護婦希望」では、具体的な記載内容に「将来、看護婦になりたいと思ったから」と端的に「看護婦になりたい」と記載したものが多い。一方、「不安や痛みを抱えている人の支えとなるよ

うな看護婦になりたいと思ったから」など、どのような看護婦になりたいかという回答もみられる。職業意欲を尊重しながら、漠然としたものをより具体的に、人間を大切にする気持ちをより科学的に展開できるよう教授していくことも大切であると思われる。

「看護婦希望」と同数で学科選択理由の第3位であったのは「夢・憧れ」である。この具体的な記載内容には、「看護婦になるのは小さい頃からの夢だから」「憧れていたから」があげられている。看護婦になることが夢や憧れであることは、看護を学習していく上で大きな原動力になると思われる。しかし現実には直面し、挫折を味わうことも起こりうるため、看護に対する考えがポジティブであるよう継続的にみていく必要があると考える。

「社会的貢献」では、具体的な記載内容に「看護婦として社会に貢献していこうと決めたから」や「看護婦になって地元で貢献したいから」があげられている。これらは看護を学びそれを活かした職業が自らのためばかりでなく、社会に貢献していこうとするものであると捉えられる。

第6位の「進路の基礎」では、具体的記載内容に「将来、保健婦になりたいから」「もともと養護教諭になりたいと思っていたので、看護婦の資格を取って、それから勉強しようと思った」などがあげられている。これらは、看護婦の資格を取得してから、さらに他の職業を目指すことを意味している。つまり本学が平成8年度から短大に昇格したことで今まで以上に進学の幅と可能性が広がったからであろう。これは本学の受験理由「短大だから」の回答にも同じ傾向がみられている。

第7位の「自己の生き方」では、具体的な記載内容に「看護婦として人間と関わることによって自分を人間的に大きく成長させられるから」や「何となく進学して、何となく就職して・・・という人生にしたくない」があげられている。看護という職業を通して自己成長したり、人生を価値あるものにしようという意志が感じられる。この職業に対する気持ちを尊重し、さらに成長期である年代を考慮して、人間として成長していけるよう教育的なサポートしていく必要がある。

第8位の「看護の学習」では、具体的な記載内容に「看護について学びたい」があげられている。これは、看護の学習に対し興味・好奇心があると考える。この興味や知的好奇心を大切にし、発展

させていくような働きかけをする必要があると考える。

看護学科選択理由の上位3位は「看護婦の職業的意義」「過去の体験」、「看護婦希望」および「夢・憧れ」である。西郷ら¹²⁾の研究では、看護を学ぶことを決定した動機の上位3位は「職業として」「興味対象として」「体験（入院・ボランティア）」であった。両者ともに職業目的、体験から看護学科を選択したものが多い。つまり短大・大学という違いはあるが、看護を学ぶことを選択する理由はほぼ同じ傾向があると捉えられる。

3. 本学の受験理由と看護学科選択理由との関係
本学受験理由「赤十字」で、看護学科選択理由として多かった上位は「過去の体験」「社会的貢献」、「看護婦の社会的意義」及び「進路の基礎」であった。この中で「社会的貢献」は他の受験理由と学科選択理由との関係で有意差はみられなかったものの、21.7%と高い割合である。これは、赤十字の活動情報から社会的意義を見出しているためと推察される。

本学受験理由「職業志向」で、学科選択理由として多かった上位は「看護婦の職業的意義」「夢・憧れ」、「過去の体験」及び「看護婦希望」であった。本学を職業的目的で受験した学生は看護学科の選択理由も職業的な視点から考えていたことがわかる。

本研究の限界は、1) 対象者の背景について調査していないためその点からの分析が深められない。2) 一施設からの調査であるため一般化できない、などがあげられる。

今後の課題は、研究の限界に対し明確にしておくこと、また本学看護学科の学生に対し今後も調査を継続することで本学看護学科の学生の本学選択の傾向を明らかにしていくことなどがあげられる。

VI. 結 論

今回の調査により、以下のことが明らかになった。

- 1) 本学の受験理由及び、学科選択理由の記載件数は1人あたり1, 2件と少なかった。
- 2) 本学の受験理由は「赤十字」であること、「新設校」であること、「職業志向」の順に多かった。
- 3) 看護学科選択の理由は「看護婦の職業的意

義」が最も多く、ついで「過去の体験」からが多かった。

- 4) 本学の受験理由と看護学科選択の理由の関連性では、受験理由に「赤十字」とあげた人に学科選択理由として「社会的貢献」をあげた人の割合が多かった。

Ⅶ. おわりに

最後に、この研究にご協力くださった皆様に心よりお礼申し上げます。

引用文献

1. 西郷淳子、岩井郁子、太田喜久子、操華子：本学新入生の看護選択の動機と大学教育選択の理由に関する実態調査，第20回日本看護学会集録（看護教育），pp225-228，1989
2. 鶴コトミ、大津みき：九州大学医療技術短期大学部における看護学生の入学の動機および背景の推移，看護教育，No.17（4），pp231-234，1976
3. 大河原シゲ子、西浜早苗：東京女子医科大学看護短期大学専攻科修了生の意識と動向，東京女子医科大学看護短期大学研究紀要，No.9，pp41-46，1987
4. 小畑義、村上静子、今井悦子、北澤徳子、山崎泰子：昭和62年度学生生活実態調査報告書，京都市立短期大学紀要，No.13，pp39-47，1988
5. 小畑義、村上静子、今井悦子、中山忍、木村美和：昭和63年度学生生活実態調査報告書，京都市立短期大学紀要，No.14，pp77-90，1989
6. 小畑義、村上静子、洲脇絢子、宇戸口和子、中山忍：平成元年度学生生活実態調査報告書，京都市立短期大学紀要，No.15，pp65-75，1990
7. 小松博子、細田晶子、奈良崎英子、藤吉雅子、松本文子、浅野郁子：学生の気質に対する入学動機からの検討，岐阜市民病院年報，No.9，pp209-213，1989
8. 1) に同じ，pp225-228
9. 竹内宏：アンケート調査年鑑1996，Vol.9，p20，並木書房，1996
10. 1) に同じ，pp225-228
11. 永田忠夫：看護婦という職業を選択した要因について，愛看短誌，No.13，pp65-75，1981
12. 1) に同じ，pp225-228

参考文献

1. 波多野梗子：看護教育論，pp3-25，医学書院，1992

2. 飯田義裕：群馬大学医療技術短期大学部入学者の受験傾向についての調査報告，群馬大学医療技術短期大学紀要，No.9，pp21-23，1988
3. 片山美代子、笠井勝代、徳本ルリ子、奥谷幸子、矢野糸枝、越智文香、門脇千恵：看護学校の入学動機と臨床実習のやる気の分析，第26回日本看護学会集録（看護教育），pp75-77，1995
4. 丸橋佐和子、依田和美、吉田らし：看護の認識調査，看護教育，No.12（7），pp28-37，1971
5. 松木光子、山口花江、福井典子：看護学生の進路決定過程について，第3回日本看護学会集録，pp203-207，1971
6. 見藤隆子：人を育てる看護教育，pp3-29，医学書院，1994
7. 長浦レイ子、村上生美、原萃子：全国国立大学医療技術短期大学部看護学科3年生の進路希望の実態，看護教育，No.23（4），pp238-244，1982
8. 渡辺美和子、泊祐子、山川利江、小林美恵子、葉山ハツ子：看護学校への志望動機と職業継続意識に関する意識調査，第26回日本看護学会集録（看護教育），pp171-173，1995